第 107 号　2026 年 1 月　発行

まこと館だより

Est.1912

発行：至誠学舎立川　編集：法人事務局

～変化の時代に対応し、共に歩む～

新年あけましておめでとうございます。みなさんのおかげにより、昨年、法人は大きな事故もなく無事に業務を遂行することができました。本当にありがとうございました。本年も、皆さまにとって、穏やかで健やかな一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

この一年は、世界と日本の両方で大きな変化と試練の年でした。国際社会では、アメリカにおける第 2 次トランプ政権の発足に伴い、関税政策の見直しや国際協調の揺らぎが経済に波紋を広げました。また、ロシア・ウクライナ戦争は依然として終息の兆しを見せず、中東やアジアでも緊張が続くなど、世界は不安定さを増しています。加えて、地球規模での異常気象が深刻化し、猛暑や自然災害が人々の暮らしに影を落としました。こうした中で、「持続可能な福祉とは何か」を改めて問われる一年でもありました。

一方、国内に目を向ければ、出生数はついに 70 万人台に突入し、少子高齢化はかつてない速度で進行しています。2025 年には高齢化率が 29.3%に達し、団塊の世代が 75 歳を超える「2025 年問題」が現実のものとなりました。2040 年までの 15 年は、地域福祉のあり方を根本から見直す重要な時期となると思います。こうした社会の変化の中で、本年は「地域に根ざし、人に寄り添う福祉」の原点を見つめ直し、ICT の導入や職員の働きやすさの向上、地域連携の強化にさらに取り組んでいきます。加えて、制度の狭間にあるニーズに応える努力を重ねていきます。そして、「つながり」と「希望」をキーワードに、地域と共に歩む福祉のかたちをさらに深化させていきたいと思っております。

年始に申し上げたいのは、日々のお仕事の進め方について、少し立ち止まって見直してみませんかということです。利用者の方にとって本当に役立っているかどうか、無理や無駄が生じていないか、そして削れる部分があるかどうか――そんな視点で振り返っていただけると嬉しいです。より良い形に変革することで、みなさんの力がもっと利用者のために届くと思います。

法人は本年、新たな中期計画を策定します。財政が非常に厳しい中で計画を遂行していくためには、どうしても一人ひとりが以前の自分より「セルフトランスフォーメンション（自己変革）」する必要があると思っています。

AI 技術がいかに進展しても、福祉は人と人との絆が何よりの支えとなります。これからも皆さまと共に、あたたかな地域社会の実現を目指してまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

（社会福祉法人至誠学舎立川　理事長　稲永勝行）

事業本部情報

児　童　事　業　本　部

施設長に就任して 2 年目、今年度は中央福祉学院の福祉施設長専門講座を受講させていただいています。前期のスクーリングでは様々な分野の方々と交流し、多くの刺激を受けながら、視野を広げて自身の今後の取組みを考える良い機会となりました。現在は後期のスクーリングに向けて課題と向き合っていますが、課されたテーマと文字数に苦慮しています。そこで流行りの AI の活用を試みてみましたが、これがなかなか難しい。資料の要約や文書構成のアドバイスなどはとても役に立つのですが、文書の修正などは指示が上手くできないと全く見当違いな回答が返ってきたり、頼んでもいない修正が加えられたりと、返って振り回された感もあります。また整えられ、自分の言葉を失った文書を見た時にも何か違和感を覚え、改めて拙くとも自身の言葉を大切にしたいと思いました。海外では子どもが AI との対話をきっかけに自殺に至り、裁判沙汰となるニュースもありました。1 行の言葉ではそれを発した相手や背景や思い、過去や未来、更には家族や関係者にまで広く思いをめぐらせ、問いかけに答えることは AI にはまだ難しいようです。便利な道具を上手に使いながら、人としての考えや気持ちが込められた言葉を大切にし、相手に届けられる自分でありたいと思います。　　（至誠大空の家　施設長　風間 俊秀）

保　育　事　業　本　部

今年度、小百合保育園の計画の柱として「モンテッソーリ教育を軸とし、すべての活動の中心に子どもの主体的な姿を育てる為の環境を整えよう」を大切に日々を過ごして参りました。12 月のクリスマス会では、年長児が一人ひとりロウソクを手に持ち、線上歩行を行いました。真剣にロウソクの火を見つめ、一歩一歩ゆっくりと進む時の子ども達の集中力には、今まで 6 年間積み重ねてきた姿があらわれていました。その姿を見守る 2・3・4 歳児の子ども達の年長児への尊敬の眼差しがありました。ここで新しい年を迎え、今年度も残すところ 3 か月になりました。「子ども達の育ちで保育を評価する」を大切に日々を積み重ねていきたいと思います。　　（小百合保育園　園長　吉田直美）

高齢事業本部至誠ホーム

至誠特養で勤務していた特定技能フォーリンスタッフ３名(シルビア、シャリル、ロニ職員)が、１２月初旬にインドネシアに帰国しました。３名は至誠ホームで初の特定技能１号として５年間の勤務でした。シャリル職員とロニ職員は妻子と離れての来日でしたが、シャリル職員は仕送りで家を建てられたと、旭ホーム長が今夏に訪問してくれた等、嬉しそうに自宅の写真を見せてくれました。シルビア職員は努力家で、令和６年度の介護福祉士国家試験に見事合格、日本語も見違えるように上達し、後輩達の良き相談役でしたが、惜しまれながらの帰国となりました。フォーリンスタッフは、それぞれの在留資格で受けられる支援が違い誤解も生じやすくなります。先駆者として頑張った３人に感謝と、これからの人生にエールを送りたいと思います。

（至誠特別養護老人ホーム　園長　鈴木　篤）

----------お知らせ----------

2026 年 4 月より、メンタルヘルスカウンセリングの問い合わせ先が事業本部ごとに変更となります。

・高齢事業本部：「法研メンタルヘルスカウンセリング」
・児童・保育事業本部：「ソウエルクラブこころとからだの電話健康相談」

詳細につきましては、2026 年 3 月号にて改めてご案内いたします。　　（法人本部事務局）

（編集後記）あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。私事ですが、年末に体調を崩し、ぐったりとした 2026 年の幕開けでした。今年は「健康第一」を目標に、日々を大切に過ごしてまいりたいと思います。（小）